2019 年度　　授業概要

科目名	生体計測装置学実習　②							授業の種類	実習	必修・選択		必修
授業回数	23	回	時間数	45	時間	1	単位	配当学年時期		2年	後期	

【授業の目的・ねらい】
生体計測装置学実習で使用する計測装置は医療現場で頻繁に扱う装置であり、患者の生体情報を計測・解析し評価すことは臨床工学技士の使命である。本実習では、生体計測装置学Ｉで学んだ心電計をはじめとする生体計測装置を実際に触れ計測を行い、実習を通して正しい使用方法・生体計測方法について習得する。

【実務者経験】
臨床工学技士として宮本クリニックに勤務。幅広い生体計測装置を使用し、得られた生体情報の解析・評価業務に従事。

【授業全体の内容の概要】
本実習では、臨床工学技士が医療現場で取り扱うことが多い、心電計・血圧計・超音波診断装置・呼吸関連の計測装置を用いて計測技術も習得する。またSPP検査・ABI検査・体成分分析装置の原理および操作方法についても学ぶ。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】
各生体計測機器を適正に使用することができる。
得られた生体情報を解析・評価し他者に説明できる。
実験レポートを正しく作成できるようになる。

回数	講義内容	準備物(教材)
16	カプノメーター　パルスオキシメータ（実習）	
17	皮膚灌流圧（ｓｐｐ）　足関節上腕血圧比（ABI検査）について　（講義）	
18	皮膚灌流圧（ｓｐｐ）　足関節上腕血圧比（ABI検査）について　（講義）	
19	皮膚灌流圧（ｓｐｐ）　足関節上腕血圧比（ABI検査）について　（実習）	
20	皮膚灌流圧（ｓｐｐ）　足関節上腕血圧比（ABI検査）について　（実習）	
21	体組成分析 inbody（講義・実習）	
22	体組成分析 inbody（実習）	
23	まとめ	
	定期筆記試験	

【使用教科書・教材・参考書】
・臨床工学講座　生体計測装置学、石原謙、医歯薬出版株式会社

【準備学習・時間外学習】
・事前学習として機器の原理を予習して実習に臨むこと
・事後学習は実習内容の復習とともに期限に余裕をもって計画的に報告書の作成を行うこと

【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】
試験の結果を100点満点として成績を評価する
小テストを30点、レポートの評価を20点、定期試験を50点として合計100点とする
60点以上の場合に科目を認定する